

市民ネットワークわかば

まちづくり通信

〒264-0033 千葉市若葉区都賀の台 4-5-15

☎043-284-2339 fax: 043-284-2362

No.72

ホームページアドレス <http://www.chibanet.jp/wakaba/>

子育て支援団体等主催で市の職員から学校や保育所の給食などの放射能対策について話を聞きました。

《市民ネットワークわかば協賛》



オリジナル
出前講座

千葉市の放射能対策

—参加者から感想を伺いました—

2月10日の出前講座、受けて良かったです。また、違うテーマでも受けてみたいです。良かったのは、顔を見て直接話せた満足感と、同じように考えている人に会えた嬉しさ、この2点が大きいです。

放射能について、色々情報は出ています。千葉市からも、市政だよりや簡潔なパンフレットを貰いました。それでも、不安なのです。役所の担当者の方と、顔を合わせて、直接に聴いたり意見させてもらったりして、こちらの気持ちも伝えられた、今後も対策してくれるだろう、と思えました。

また、被曝の心配には、身近な人達でも温度差をかなり感じます。同様に考えている人（特に母親）に会えたことが、正直ホッとしました。「放射能、もう知りたくない」と思う事もあります。でも、仲間がいると安心感があります。

託児もあって、子連れでも気兼ねなく出席できたのも、助かりました。
(殿台町 鎗田奈津子)



※2月18日 市民ネットワークわかば定期総会にて講演
(みつわ台 岩崎明子)

ふるさとを失うということ

～福島県飯館村民からのメッセージ～

長谷川健一さんは、飯館村で酪農を生業としていました。しかし3月11日以後、生活が一変。放射線という目には見えないものに、仕事も故郷も奪われてしまったのです。
原発事故直後の放射線量を村民に話さないよう口止めされたことや、家族のように大切にしていた牛たちを手放し、仮設住宅に転居したこと、酪農仲間が自ら命を絶ったことなどを淡々と語る口調には、やり場のない悲しみと怒りがこめられています。
「高校生の女の子が、『私たち将来結婚できない、子ども産めない』と言っんです。子どもにこんな思いをさせるなんて、本当にあつてはならないことです」と長谷川さん。
「私から2つお願いがあります。一つは子どもを被曝によって差別しない社会づくり。もう一つはこの事故を決して風化させないことです。」と結びました。

「黒い粉じん」モニター募集中

昨年12月、夏に降ってくる黒い粉じんについて、市民の声が届き千葉市が動きました。市民としても、行政や企業と連携し、飛散エリアを調べるため一年かけてサンプリング調査を行います。毎月1～2回、網戸から拭き取った粉塵の写真をツイッターやメールを使って送信して下さる方を募集中です。

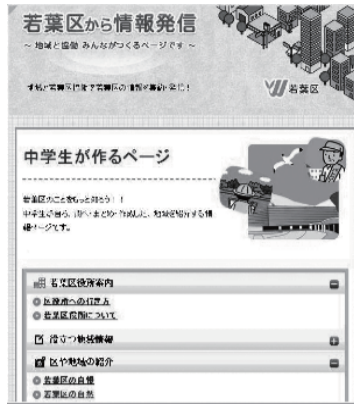
土井 makko59@imts.tepm.jp、または 043-233-7807 (環境情報センター) までお問い合わせください。

「6月1日～3日 空間放射線量測定希望者募集しています」と「さようなら原発、1000万人アクション 署名活動5月末まで継続中です」

中学生がつくるホームページ

若葉区だけの先駆的な取り組みが始動

1月27日に若葉区長と会話し今年度の若葉区の行政方針などを尋ねました。そこで紹介されたのが若葉区基本計画(H24年度～H33年度)でした。



その中にポイントとして次のことがあげられています。

◎これからは、こどもから高齢者に至る区民一人ひとりがまちづくりに対する意識を持ち、積極的に行動し、支えあい、愛着と誇りのある若葉区に育てます。

◎若葉区の地域特性である豊かな自然環境をはじめとする地域資源の魅力を高めるとともに、情報発信等により積極的な活用を進め、区の魅力と活力を向上させます。

ここから、中学生が若葉区の情報発信するホームページを作る、というプロジェクトが生まれました。

プロジェクト担当の地域振興課 地域づくり支援室に聞きました。「若年層に対する情報発信が弱いため、中学生の目線で情報をまとめたいという事と、関わった中学生自身がまちづくりに興味を持ってもらえるのではないかと狙いがありました。モデル校になった、大宮中学校の1年生のうち17名が総合学習の授業の一環としてホームページの作成に励み、ほぼ完成の域に達しています。生徒一人一人が区役所案内・市政の情報・若葉区の魅力の中でテーマを決め、企画、研究、発表をします。行政の情報発信をするホームページを、中学生が作るというのは千葉市では初めての事です。公開は4月中旬の予定。千葉市や若葉区のホームページからアクセスできるようになりますので、ぜひご覧ください。」

若葉区の今回の試みは、行政に若い人の視点が入ってきた嬉しい第一歩です。

市民ネットワークはこれまで、市政を身近に感じてもらいたいと、議会への傍聴ツアー、議会終了後の議会通信発行、若葉区の魅力を探る面白ツアー、などを実施してきました。

今回の市民(中学生)と行政とが一緒になった、若葉区の情報発信の取り組みに、大いに期待しています。

若葉区の皆さん、新しいホームページを見た感想や提案を区や市に届け、このプロジェクトを応援しましょう。
(桜木北 福田美智子)



わかばのいずみ

～若葉区で活動する団体を紹介します～

初めまして。子ども支援を柱とし活動を行っている『NPO法人子どもユニットWakaba』です。昨年11月に西都賀より小倉台に事務所を移し、未就園児とお母さんの居場所『はっぱのおうち』、園児から小学生の遊び体験の場『サンサンゴー』あそぼうス『サタディとぎぎクラブ』夏には『親子キャンプ』『こどもキャンプ』を県内外で実施しています。遊び体験は若松町在住スタッフの畑や空き地で火や水や土などにふれ合い、自然たっぷりの中で遊んでいます。青年や高校生を中心に企画している秋の大運動祭は、ダイナミック且つバラエティーに富んだメニューで、幼児から小中学生には大好評です。そして『Wakaba』のメインは何と言っても『こどもキャンプ』です。「小中学生で構成された班」を高校生が指導員としてまとめ、それをサポートする青年達がいまいます。この様な体験活動を通じ、子どもの健全な成長を見守っていきたくと考えています。是非、お立ち寄りください。(みつわ台 川口史子)

お問い合わせ：『NPO法人子どもユニットWakaba』☎232-0045
千葉市若葉区小倉台5-21-9 モノレール「小倉台駅」下車 徒歩3分